

「輝く木々」

昨年11月下旬秋を見付けに訪れた高尾山の一風景です。

高尾山は770haと最も小さな国定公園で、標高は599mとそれ程高くありませんが、東京都心から近いこともあり多くの登山者が訪れています。登山者数はもともと年間200万人ほどでしたが、2007年にミシュランガイドで富士山と共に高位ランクを得て300万人にも達したこともあり、世界一登山者の多い山とも言われました（現在は少し減少傾向にあるようです）。

高尾山の歴史に触れてみます。奈良時代（744年）行基が薬師如来を祀る薬王院を開き、室町時代（1375年）に後源大徳が飯綱権現を祀って再興し以降山岳仏教と修験の場として栄えるようになりました。戦国時代には八王子城主に、江戸時代には徳川幕府の御林山として保護されてきました。その後昭和42年（1967年）に明治の森高尾国定公園に指定され、令和2年（2020年）に東京都の文化遺産に認定されています。

高尾山は先述のように古くは殺生を戒める教えや、中世以降の各種保護政策で守られ、自然豊かな山となり、今では1,600種類以上の高等植物が生育しているそうです。小生も草花に興味を持った20年程前、写真による植物採集に出かけ平地にはない草花を楽しんだものです。

最後になりましたが、この日の小生の日記の一端を披露します。『秋晴れのもと高尾山へ。目的は“秋”を求めて。脚力も相当ダウンしているので、万一のことを考えて健康保険証を携行。予想通り帰路の山道では足がガタガタ。リフトは有難い！』。大きな杉の陰の林と輝く秋の林を同時に見られた山行でした。



菊岡 保人

Size : 530×455mm(F10)

